

アートギャラリー

高野町×近畿大学「大学のふるさと協定」事業 高野町活性化プロジェクトの活動報告

安 起 瑩

高野町（和歌山県伊都郡）と近畿大学は、和歌山県の「大学のふるさと」事業の趣旨に賛同し、「大学のふるさと協定」（2017年2月27日）を締結しました。この協定の趣旨は、「14学部48学科を有する総合大学である近畿大学の知見を生かして、産業・観光振興と地域間交流を中心とした連携・交流を図ります。また、和歌山県は、広報などの活動サポートを実施し、交流活動の継続を支援します」です。

これは、町の過疎・高齢化が進むなか、地域との連携、そしてそれを取り巻く施設を活用、大学のゼミや地域住民も受講できる講座の開講、また学生と地域住民、外部団体などが連携したイベントを企画開催するなど、これらの取り組みを通して、可能性を模索しつつ、交流による地域の活力づくりにつなげることを目的としています。

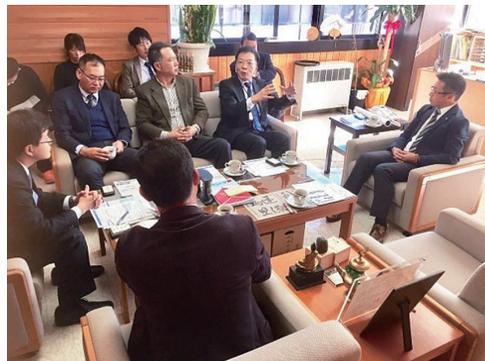


協定締結式：高野町長 平野嘉也（左）、近畿大学学長 塩崎均（当時／中央）、和歌山県知事 仁坂吉伸（当時／右）（写真：近畿大学 HP [news release]. 2017.02.27, <https://www.kindai.ac.jp/news-pr/news-release/2017/02/008160.html>)

また、この活動の主なテーマは下記の3点が挙げられます。

- ・高野町と近畿大学が連携し、双方にとって有益で継続的な取り組みを推進
- ・総合大学の英知を結集し、高野町の地域課題への対応と地域の活性化に貢献
- ・和歌山県は両者の活動内容を積極的に広報するなど、継続的な交流活動を支援

本専攻に町から連携活動の依頼があったのは、2017年5月22日でした。本学の特色の一つである芸術学科のアートやデザイン力を活かし、高野山一帯をフィールドに学生が様々な交流イベントや町のPRに繋がる活動を行ってほしいという内容でした。この依頼に対して、本専攻では、法人本部社会連携推進センターと連携し、活動を進めました。まず、大学関係者が高野町（町長 平野嘉也）を訪問、デ



本学の関係者と高野町訪問、平野嘉也 町長や役場関係者との打ち合わせの様子

イスカッションやリスニングを行いました。その後、町に活動計画を提出、2018年～2020年の3年間計画で連携活動契約を結び、活動を進めることになりました。しかし、この活動はコロナ禍の影響により、1年延長の2021年度に終了することになりました。

本稿では、その活動計画の中で、2018年～2021年までに実施された内容を紹介します。

1. 近畿大学×高野町「近大アート国際交流展」

■内容：高野山観光情報センター「iKOYA（いこうや）」にて、本専攻卒業のOB・OG、芸術学科教員、本学と交流のある海外作家上記の出演作家による油彩画・版画・陶芸・染色・立体造形・ガラス造形・写真・グラフィックポスターなどの多様なジャンル作品（35点）展示しました。



造形芸術専攻の教員と高野町の高野山観光情報センター iKOYA（いこうや）の会場訪問、打ち合わせや作品搬入様子



展示様子（高野山観光情報センター iKOYA（いこうや）会場）

- 参加ゼミ（教員）：版画ゼミ（伊藤尚子 教授、2020年退任）、立体造形ゼミ（柴清文 教授、2021年退任）、油彩画ゼミ（岩岡浩二 教授）、ガラス造形ゼミ（本村元造 教授）、陶芸ゼミ（上田順康 教授）、染織ゼミ（関口千佳 教授）、グラフィックアートゼミ（安起瑩 教授）
- 出展作家：近畿大学文芸学部芸術学科出身のOB・OG、芸術学科教員、本学と交流のある海外作家（アメリカ、ベルギー、レバノン、台湾、中国、韓国）
- 会 期：2018年10月23日（火）～11月11日（日）
- 場 所：高野山観光情報センター「i.KOYA（いこうや）1F 展示スペース」



交流展ロゴ（左）／交流展案内バーナーポスター（右）



近畿大学（東大阪市）と高野町がタイアップした芸術イベント「近大アート国際交流展」が、高野山観光情報センター（同町高野山）で開かれている。11月11日まで。

両者は2017年2月、都会の大学と県内市町村が連携して地域活性化に取り組む「大学のふるさと協定」を結んだ。多彩な仏教芸術遺産に加え、近年は外国…

さまざまな分野の作品が並ぶ展覧会場。和歌山県高野町の高野山観光情報センターで、松野和生撮影



近畿大学×高野町「近大アート国際交流展」開催 地域創生を目的とする「大学のふるさと協定」の取り組みとして実施

プレスリリース発表元企業：学校法人近畿大学

Cortex XDR™
Break Your Security Sites With Detection and Response Across Cloud, Network, and Endpoints. Palo Alto Networks

近畿大学（東大阪市）は、平成30年（2018年）10月23日（火）から和歌山県高野町高野山の高野山観光情報センター「i.KOYA（いこうや）」にて「近大アート国際交流展」を開催いたします。本展覧会は、平成29年（2017年）2月に高野町と近畿大学が締結した「大学のふるさと協定」の一環として行われるイベントとして、本学の特色の一つである芸術学科の「アート文化」と高野町の活性化が地域活性化に貢献します。

メディア報道：近大アート国際交流展. 2018-10-25. 毎日新聞（デジタル版）（左）／高野町「近大アート国際交流展」開催. 2018-10-15. 財経新聞（デジタル版）（右）

2. 講演会と学生見学

■題名：「執金剛神像と深沙大將像－重源の天竺への憧れと仏法興隆への願い」



講演会様子（上段2枚）／参加学生の文化施設見学と体験の様子

■内容：高野山に伝わる執金剛神像、深沙大将像は、源平の合戦の際に焼亡した東大寺の再建に尽力した僧重源が高野新別所に安置したものと推測されていますが、近年、鎌倉時代の有名な仏師快慶の作であることが確認されて話題になりました。執金剛神と深沙大将の組み合わせは非常に珍しく、ほかに京都の金剛院に伝来する同じく快慶作の一对しか知られていません。この2尊の組み合わせがなぜ生まれたのかはこれまで知られてこなかったのですが、当時の状況を読み解くと、東大寺焼亡により揺らぎかけた仏教誕生の地天竺（インド）との絆を再確認する願いを込め生み出されたものであることが見えてきます。

■講演者：近畿大学 准教授 松岡久美子（まつおかくみこ／専門：日本美術史、仏教美術・彫刻研究）

■日時：2019年5月18日（土）15：15～16：45

■場所：高野山観光情報センター「i.KOYA（いこうや）1F スペース」

■その他活動：本専攻学生22名（芸術学ゼミ、グラフィックアートゼミ2～4回生）が、町の歴史文化施設見学と体験。

3. 「高野山観光情報センター ikoya」の公式ロゴマークをデザイン

■内容：本施設のロゴデザインの依頼があり、学生が高野町の自然・伝統・文化などをキーワードに高野山観光情報センター ikoya（いこうや）の公式ロゴマークのデザインを行いました。2019年7月より授業の一環として、ゼミの3・4年生14人によるデザイン28案を高野山観光情報センター ikoya の関係者へプレゼンし、最終候補8案を高野町に提出しました。その後、役場、高野町観光協会、そして金剛峯寺などの関係者による2回の投票を経て最終デザインを決定しました。このロゴは2020年2月から公式ロゴマークとして活用されています。

【ロゴデザインコンセプト】

インターネット位置情報マークをモチーフに、高野山の自然豊かな景色をイラストで表現。下の円はこれからの高野町の広がり、高野山観光情報センターから発信される観光情報の様子を表しており、カラーは金剛峯寺の根本大塔（こんぼんだい

とう)と境内の苔、そして高野槇(こうやまき)の色をベースにしています。高野町の自然・伝統・文化などをキーワードにデザインした公式ロゴマークの活用によって、高野山観光情報センターのPRと町の活性化に貢献します。



高野山観光情報センター ikoya (いこうや) ロゴマークとロゴカラー調整の調査様子



ロゴマークデザイン案(一部)と学生プレゼン様子



高野山観光情報センター ikoya (いこうや) のロゴマーク施工様子

4. 高野町 PR 観光メッセージポスター展

■内容：高野町の自然・伝統・文化などをキーワードに、アートを通じて学生目線による新たな観光ビジュアルソースの発掘と PR で町に貢献することを目的として開催しました。本学グラフィックアートゼミの学生が、授業の一環として現地訪問や文化施設などの見学を行い、そこで感じた町の魅力を表現した観光 PR メッセージポスターを制作・展示しました。また、この作品を活かし高野町（高野山）の新たな観光ビジュアルコンテンツの発掘を模索しました。本件のポイントは以上になります。

- ・学生目線による町の新しい観光ビジュアルコンテンツの発掘
- ・作品展や課題合評を現地会場で行い、学外実習やフィールドワークを通じた実学教育を実践
- ・アートと観光の融合をキーワードに、「産業・観光振興」と「地域間交流促進」をテーマとして社会と大学が連携し、地域活性化に取り組む

■会 期：2019年11月2日（土）～11月17日（日）

■場 所：高野山観光情報センター「i.KOYA (いこうや) 1F スペース」

■参加人数、出展作品数：学生16名、16作（サイズ：横730mm×縦1030mm）



搬入や展示の様子（上段 2 枚）／ 出展ポスター作品（一部）（中段 4 枚）／ 出展作品（課題）合評の様子（下段、左）／ 本展の告知ポスター（下段、右）

5. 高野町観光 PR 作品国際交流展

■内容：文芸学部 芸術学科と東國大学（Dongguk University／韓国）芸術学部の学生が作品を制作し、展示する「高野町観光 PR 作品国際交流展」を開催しました。これは、本学と東國大学が、「高野町」と「慶州市（キョンジュ市）」の自然・伝統・文化をテーマに制作したアート作品の交流展示を通じ、2つの町の PR と活性化に貢献することが目的です。芸術学科造形芸術専攻 グラフィックアートゼミの教員と学生らと韓国有数の仏教大学のひとつである東國（ドングック）大学芸術学部デザイン学科の教員（教授 オチャンリン）と学生らが、授業の一環として制作を行いました。

本来は、本展の会期に合わせて、東國大学の学生らが高野町を訪問、作品合評や観光などの現地体験を通じた交流の予定でしたが、コロナの終息の目途がつかず、作品展示だけの交流イベントになりました。このような状況により現地参加の交流はできなかったものの、両大学は展覧会期中に



搬入様子（上段2枚）／展示の様子（下段、左）／告知バーナーポスターと参加学生

オンライン授業を通じ、両町の紹介、展覧会様子の報告、そして作品合評を行うなどの交流も行いました。

■会 期：2021年11月9日（火）～26日（日）



展示様子：東國大学の学生作品（左）／近畿大学の学生作品（右）



両大学の学生の出展ポスター作品（一部）／出展 T シャツ作品（上段中央）

■場 所：高野山観光情報センター「i.KOYA（いこうや）1F スペース」

■参加人数、出展作品数：造形芸術専攻（グラフィックアートゼミ）教員1名、学生12名の13作（TシャツとA4サイズ）／東國大学デザイン学科 教員2名（非常勤講師含む）、学生22名の24作（ポスターサイズ：横594mm × 縦841mm）

おわりに

この事業活動の目的は、本稿の冒頭で述べたように、町をフィールドとし、地域と連携をし、地域住民や観光客のためのワークショップやイベントを実施し、そして受講できる講座の開講を企画開催など、これらの取り組みを通して、新たな可能性の模索と交流による地域の活力づくりにつなげることでした。

本専攻では、このような目的に応えるべく、総合大学である本学の特色の一つであるアートとデザイン力を活かし、微力ながら町のPRに繋げる様々な活動を行いました。しかし、町からの要望によるいくつかの課題の中で、残念ながらコロナの影響でその活動が延長または中止されたものもありました。

4年間、町や社会連携推進センターと連携し、本事業を進めながら多くのことを経験し学びました。また、多方面で本専攻とゼミにアドバイスやご協力をしてくださった高野町の平野 嘉也町長と役場の皆様、社会連携推進センターの皆様、本専攻の先生方々と学生諸君、そして、東國（ドンゲック）大学の視覚デザイン科の教員の方々と学生諸君にこの場をお借りして改めてお礼を申し上げます。

最後に、コロナ禍の影響により様々な活動が制限される中、「高野町観光PR 作品国際交流展」のために多方面でご協力を頂きました、故 呉 昌麟（オ チャンリン、東國大学）教授に本稿をお借りして、改めて心より感謝とご冥福をお祈りいたします。